

【調査概要】

調査名 : **子どものからだの調査 2015 (通称, 「実感調査 2015」)**
 調査対象 : 3,771 所・園・校 (分析には, 3,157 名分のデータを使用. 有効回収率は 33.5%)
 調査時期 : 2015 年 1~4 月
 調査時期 : 郵送による質問紙調査票

**「最近増えている」と実感されている「おかしさ」は
 「アレルギー」と「すぐ“疲れた”という
 “神経系”に集約される「おかしさ」の実体**

1978 年からスタートした「子どものからだの調査」、通称「実感調査」が前回調査 (2010 年) から 5 年を経て、2015 年 1~4 月の期間に実施された。その結果、保育者および教育者が日頃から子どもを観察している中で「最近増えている」と実感している事象のワースト 10 が明らかになった (表 1)。これをみると、「アレルギー」と「すぐ“疲れた”という」の 2 項目がすべての学校段階のワースト 5 にランクされていることがわかる。このような傾向は、1990 年調査以降一貫して続いている結果でもあり、「アレルギー」と「すぐ“疲れた”という」への心配が**“根強い実感”**であることもわかる。

さらに、この表にランクされた「おかしさ」の事象から、その背景に存在すると予想されるからだの問題 (実体) を探ってみた。すると、表出している「おかしさ」の事象は多様であるものの、その問題 (実体) は前頭葉機能、自律神経機能、睡眠・覚醒機能といった**“神経系”の問題**と集約できる様子もみえてきた。

表 1 「最近増えている」という実感・ワースト 10 (施設・学校段階比較)

保育所 (n=199)		幼稚園 (n=104)		小学校 (n=518)		中学校 (n=256)		高等学校 (n=164)	
1. アレルギー	75.4	1. アレルギー	75.0	1. アレルギー	80.3	1. アレルギー	81.2	1. アレルギー	78.7
2. 背中ぐにゃ	72.4	2. 背中ぐにゃ	73.1	2. 視力が低い	65.6	2. 平熱 36 度未満	70.7	2. 夜、眠れない	68.9
3. 皮膚がかさかさ	71.9	3. すぐ「疲れた」という	71.2	3. 授業中、じっとしていない	65.4	3. 首、肩のこり	68.0	3. すぐ「疲れた」という	62.8
4. 保育中、じっとしていない	70.9	4. オムツがとれない	69.2	4. 背中ぐにゃ	63.9	4. 夜、眠れない	67.2	3. 首、肩のこり	62.8
5. すぐ「疲れた」という	67.3	4. 自閉傾向	69.2	5. すぐ「疲れた」という	62.9	5. すぐ「疲れた」という	66.4	5. 平熱 36 度未満	61.6
6. 嘔まずに飲み込む	64.8	6. 保育中、じっとしていない	63.5	6. ボールが目や顔にあたる	60.6	6. 体が硬い	59.8	6. うつ傾向	59.1
7. 夜、眠れない	57.3	6. 発音が気になる	63.5	7. 平熱 36 度未満	59.3	7. 不登校	59.0	7. 腹痛・頭痛を訴える	57.3
8. 自閉傾向	56.8	8. 床にすぐ寝転がる	62.5	8. 絶えず何かをいじっている	58.1	8. 腹痛・頭痛を訴える	57.8	8. 腰痛	55.5
9. 床にすぐ寝転がる	52.8	9. 体が硬い	59.6	9. 皮膚がかさかさ	57.7	9. 視力が低い	57.4	9. 症状説明できない	54.9
10. 転んで手が出ない	51.8	10. つまづいてよく転ぶ	53.8	10. 休み明けの体調不良	57.1	10. 休み明けの体調不良	57.0	10. ちょっとしたことでも骨折	52.4
10. つまづいてよく転ぶ	51.8	10. 皮膚がかさかさ	53.8						

注：表中の数値は%を示す。また、小学校、中学校、高等学校は養護教諭による回答。

心配する教諭は、中国よりも日本で多い！

今回の調査では、中国・北京市の教諭を対象にも行われた。もちろん、国が異なれば、子どもの様子も、学校の様子も異なる。そのため、子どもの“からだのおかしさ”に関する実感に違いがあるのは当然である。ところが、表2が示すように、両国の回答率には極めて大きな差が示された。このような結果を目の当たりにしてわれわれが考えたことは「養護教諭」の存在である。日本の学校には養護教諭が配置されているのに対して、中国には配置されていない。そのため、保健室で過ごすことができた子どもの様子は、養護教諭を通して職員会議や校内研修等の機会に発信されることになる。逆にいうと、日本の教諭はそのような報告を日頃から耳にすることになる。このような機会は、教員養成課程において「学校保健」や「教育保健」、「教育生理学」のような専門科目を学んでこなかった教諭においても、それを学ぶ機会になっているように考えるのである。教員養成課程における「学校保健」や「教育保健」、「教育生理学」といった科目の必修化が古くから叫ばれ続けている所以ともいえよう。

表2 「最近増えている」という実感の回答率・ワースト10

[小学校]		
養護教諭 (n=518)	教諭 (n=917)	中国・教諭 (n=395)
1. アレルギー 80.1	1. アレルギー 66.0	1. 視力が低い 37.0
2. 視力が低い 65.6	2. 背中ぐにゃ 65.6	2. 朝からあくび 21.8
3. 授業中、じっとしていない 65.4	3. 体が硬い 60.4	3. 朝、起きられない 18.2
4. 背中ぐにゃ 63.9	4. すぐ「疲れた」という 59.0	4. 背中ぐにゃ 18.0
5. すぐ「疲れた」という 62.9	5. 絶えず何かをいじっている 58.1	4. 授業中、目がトロン 18.0
6. ボールが目や顔にあたる 60.6	6. 授業中、じっとしていない 56.7	4. 視力がアンバランス 18.0
7. 平熱36度未満 59.3	7. 視力が低い 56.1	7. 肥満 16.5
8. 絶えず何かをいじっている 58.1	8. 自閉傾向 50.4	8. 絶えず何かをいじっている 15.9
9. 皮膚がカサカサ 57.7	9. 首、肩のこり 48.2	9. 体が硬い 15.4
10. 休み明けの体調不良 57.1	10. 休み明けの体調不良 45.1	10. すぐ「疲れた」という 14.2
	10. 腹痛・頭痛を訴える 45.1	
[中学校]		
養護教諭 (n=256)	教諭 (n=392)	中国・教諭 (n=212)
1. アレルギー 81.2	1. アレルギー 63.0	1. 視力が低い 49.1
2. 平熱36度未満 70.7	1. すぐ「疲れた」という 63.0	2. 朝、起きられない 26.9
3. 首、肩のこり 68.0	3. 体が硬い 61.0	3. 授業中、居眠り 25.9
4. 夜、眠れない 67.2	4. 腹痛・頭痛を訴える 60.2	4. 朝からあくび 25.5
5. すぐ「疲れた」という 66.4	5. 不登校 54.8	5. 授業中、目がトロン 22.2
6. 体が硬い 59.8	6. 背中ぐにゃ 54.6	6. アレルギー 21.2
7. 不登校 59.0	7. 自閉傾向 52.8	7. すぐ「疲れた」という 19.8
8. 腹痛・頭痛を訴える 57.8	8. ちょっとしたこと骨折 50.5	7. 視力がアンバランス 19.8
9. 視力が低い 57.4	9. 視力が低い 49.7	9. 体が硬い 19.3
10. 休み明けの体調不良 57.0	10. 休み明けの体調不良 49.5	10. ちょっとしたこと骨折 18.9
		10. うつ傾向 18.9

注；表中の数値は%を示す。また、養護教諭の回答は表1を再掲したものである。

■この件に関するお問い合わせ先

日本体育大学学校保健学研究室 野井真吾
 Phone&Fax. : 03-5706-1543 (研究室直通)
 e-mail : nois@nittai.ac.jp